

## STAGE 1-5


## 旧東京工場 (1号館・旧2号館・新2号館)


新設 / 増設 / 立て替え 1987(昭和62)年閉鎖後移転


## 竣工 DATA

竣工年月	1965 (昭和40)年9月	1967 (昭和42)年5月	1977 (昭和52)年1月	
設計者	松本設計	松本設計	松本設計	
施工者	三木組	不明	小寺工務店	
施設概要	敷地面積	5,034.37㎡		
	延べ床面積	7,339.38㎡	2,227.70㎡	4,963.28㎡
	構造	R C造5階建	R C造3階建	RC造6階建
	プラットホーム	開放型低床式	開放型低床式	開放型低床式
収容能力	防熱方式	内防熱	内防熱	内防熱
	総トン数	11,738.57t	2,019t	6,831.00t
	SF級	×	×	1,138.58t
	F級	11,195.64t	2,019t	4,553.84t
	C級	542.93t	×	1,138.58t
	凍結	7.5 t / 日	×	×
冷却設備	施工者	中須製作所	中須製作所	第一冷凍プラント
	冷凍機メーカー	三菱重工・三菱電機・三菱造船	三菱電機	三菱重工・三菱ヨーク
	主要冷凍機	高速多気筒冷凍機・ロタスコ	高速多気筒冷凍機	高速多気筒冷凍機
	冷媒	アンモニア	アンモニア	R-22
その他設備	冷却方式	集中式・強制循環式・ヘアピンコイル	不明	分散式・直接膨張式・ユニットクーラー
		エレベーター4基、ロープトローリー3基	ロープ式エレベーター1基	油圧式エレベーター2基


ついに首都東京への進出!  
ここでもチャレンジの連続?!


 旧名古屋工場建設と同時期に旧東京工場もできたんですよ。こちらは5階建ての鉄筋コンクリート造ですよ?

 構造が鉄筋コンクリート造なのは、旧東京工場は当時最大級規模の倉庫でしたから、防熱、強度の面からも鉄筋コンクリート造になりますね。この大型倉庫を冷やすのは大変だったのでは?

 冷却設備は中須製作所による施工だね。ここは竣工当初はスクリー冷却機が導入されていたようだけど、すぐに三菱電機と三菱重工の高速多気筒冷凍機と三菱造船のロタスコ(ロータリー


スクロール式)に更新したそうだよ。現代とは比べ物にならないけど自動化が進んだみたいで、トラブルは多かったけど随分楽になったと覚えているよ。とは言っても庫内温度の管理には工務担当者の力量がものを言った時代だね。


 今じゃ検知器がついていて何かあれば自動停止してくれますが、当時は温度の高い荷物の入庫や扉などの設備のトラブルなども多くあって、工務担当者は神経を使って大変だったんでしょうね。

 そりゃね、この時代の工務担当は『何でも屋』だったからね、機械や設備の補修は全て


やったね。


設計に関しても、これまでに培ったノウハウがふだんに採用されていて、二段式天井ヘアピンコイルを奇数階(1階、3階5階)にだけ設置し、3階と5階の床に隙間を作り、2階と4階は上階からの冷気で冷やしていたんだよね。だから3階と5階の庫内に入ると下の階が見えるんだ。後日フォークリフト導入のため、床の補強工事をやったんだけど、その床の隙間は塞がないようにしたらしいよ。

 それって大丈夫なんですか?

 まあ、庫内は冷えてはいたし…。偶数階分ヘアピンコイルの設備が要らないから資金が少なくて済んだからね。アイデアマンであった創業者(故吉橋会長)ならではの逸話というか、物凄いチャレンジだったよね。

防熱の工夫では冷蔵室の小さな入庫扉にも特殊ゴムのカーテンを付けて外気の侵入を少なくしていたよ。そのほかにも旧東京工場ではコンベアを運河の横に置いて荷物を流して仕分け作業を行ったね。この経験が後に活かされた。

 新港埠頭工場で採用したプラットホームは高床式だったのに、ここは低床式ですよ? これは何故ですか?

 まず、低床式プラットホームなのは、やはり物流の主流がまだ船だったことと、当時の荷物が原料ベースの馬肉、マトンカラス、マグロなどのハダカ物が中心だったのでね、船から上げて荷物を人海戦術で選別して小さな扉から入庫をしていたので、低床式の方が効率は良かったんだよ。その分、低床式プラットホームでの床の強度は相当要求されたようだね。

温度管理とか衛生面とか、今じゃ考えられないけど、まあ時代だったよね。高床式プラットホームに関しては、東京工場よりも10年以上前に建てられた新港埠頭工場が先行



東京工場第1号倉庫(昭和40年)



旧2号倉庫(昭和42年)



竣工当時のスクリー冷却機

だったね。


旧2号館の冷蔵倉庫は平屋なんだけど、その上に寮があったんだ。新2号館は鉄筋コンクリート造の6階建てだったね。

冷凍機は、旧2号館は三菱電機のMB42Cとこの時代を代表する高速多気筒冷凍機だよ。アンモニア液ポンプのユニットクーラーだね。新2号館は色んな機械が入っていたよ。ここは分散式のR22の直膨式ユニットクーラーなんだけど、1階から3階と5階、6階は三菱重工、

4階は三菱ヨークのそれぞれ高速多気筒冷凍機、この三菱ヨークはその後、神戸工場の2号館の新設時に移設されることになったんだ。それと畜産振興事業団のエイジドビーフの凍結を行うようになる頃、新館に凍結用として三菱電機の冷凍機を増設しているね。

ここは交通アクセスも便利なところだったので、品川区から『老人ホームを作るため』と土地の売却要請があり、1987(昭和62)年に東京工場完成とともに移転したんだよ。

## 創業者(故吉橋会長)が米国視察で得たこと

 創業者がさまざまなアイデアを出してきた背景には、戦後資金も乏しいなかで創業し、いかに少ない投資で冷蔵倉庫を建てるかで頭がいっぱいだったんじゃないかな。「自分のアイデアはタダだから」と、とにかく創意工夫をすることで資金不足を補っていたようだね。それに千葉からモーターボードで横浜まで出社したなんて逸話もあるくらい、元来の機械好きだったんだよ。

いち早く海外視察などにも行き、海外の実例や機械を見てきたので、知識も豊富だったようだね。これが当時の冷蔵倉庫の設計思想の基礎になっていたんじゃないかな?

## column 低床式プラットホーム

増設された2号館(新旧共に)は、1階の床面を建物の地盤面と同じにし、フォークリフトで行き来できる低床式プラット

方式	低床式	高床式
イメージ	原料取り扱い・製造地域に適している	梱包され配送形態にある配送地域に適している
形態	倉庫1階床面が地面と同じ高さになるよう計画されている	倉庫1階床面と地面との段差がつくられている(プラットホームともいう)
配送車に対して	トラックがそのまま場内に乗り入れできる	トラックの背面、横面より貨物の取り出しを行う
搬送機器に対して	フォークリフトがそのまま場内を行き来できる	建屋内外専用フォークリフトが使用される
自然環境に対して	降雨の時に雨水が入りやすく防止策が必要になる	ほこりが入りにくい湿気が入りにくい

ホームを採用している。トラックの荷台高さに合わせ、荷捌場を周辺より高くした高床式との比較は下記表の通り。

